

空撮映像で登山を楽しく

～競秀峰登山・新たな観光案内看板を設置～

2月5日（日）、中津市しもげ商工会青年部が競秀峰（中津市本耶馬溪町）の登山道にある観光登山案内看板10箇所をSNS情報看板に更新をしました。



平成29年2月設置 中津市しもげ商工会青年部（No.5/10） ※由来には随説あり

この看板設置は商工会青年部事業の次世代地域活性化事業「地方創生フォローアップ事業」として行うものです。

中津市しもげ商工会青年部では、地元中津市本耶馬溪町にある「競秀峰の景」をテーマに研究を進めており、今年1月には競秀峰の景をドローンで空撮を行い、空撮写真と動画を撮影しております。写真を看板に使用するとともに、その動画（30秒～1分程度）を動画配信サイトYouTubeにて配信しております。新たに設置する観光登山案内看板

にもそのデータを楽しめるようにQRコードを添付しており、スマホで読み取ることで、動画を再生することもできます。

この事業を行うこととしたきっかけは、競秀峰の景の看板がスポットの名前の紹介にとどまっていたことからでした。競秀峰登山の際、標識看板が設置されており、登山に際しての重要な道標となっているが、スポットの名前だけでは初めて登山する人にとってはわからないことも多いと感じていました。

立ち入り禁止区間となっているポイントも多く、絶景を楽しめていない現状もあります。

そこで、今回の事業で新たな看板を設置し、その由来、おすすめのポイント、競秀峰登山コース全体から見た現在地、「ドローン空撮映像」についてインターネットを通じて楽しめる環境を整えております。これにより、競秀峰登山を空中からの視点など多視点からより楽しんでいただきたいと思いますと考えております。競秀峰登山の際はぜひ青年部で設置した看板もお楽しみに見ていただければと思っています。

看板設置	①一の峰、②二の峰、③三の峰、④恵比須岩、⑤帯岩（展望台付近に設置） ⑥鬼面岩（展望台付近に設置）、⑦妙見岩、⑧不動窟（銚岩説明） ⑨清水洞（釣鐘岩説明）、⑩三陣の洞（陣の岩説明）
------	--

<サイト情報> 中津市しもげ商工会 http://shimoge.oita-shokokai.or.jp/	<概要> 中津市しもげ商工会青年部 … 中津市の旧下毛地域の 商工業者の若手経営者・後継者で構成される団体です。部 員数は57名。
<本件に関するお問い合わせ> 中津市しもげ商工会三光支所 小手川亮太 TEL：0979-43-2174 FAX：0979-43-2866 E-mail：kotegawa@oita-shokokai.or.jp	

1. 競秀峰の景・一の峰

～競秀峰探勝道～



いちのみね 一の峰

観光案内所（樋田口）から登山すると最初のスポットが「一の峰」である。真下には青の洞門がある。

【競秀峰と青の洞門・その1】

競秀峰の真下には青の洞門がある。青の洞門は禅海和尚が掘ったトンネルです。江戸中期（1734年頃）から30年もの歳月をかけて掘りました。

観光案内所（樋田口）から競秀峰を約342m掘ったとされ、掘削機械もない当時、通行人の安全のため、ノミや槌で掘り進めていきました。



2. 競秀峰の景・二の峰

～競秀峰探勝道～



にのみね 二の峰

観光案内所（樋田口）から登山すると2番目のスポットが「二の峰」である。

【競秀峰と青の洞門・その2】

青の洞門ができる以前はどのように通行していたのであろうか。

「競秀峰の山越え」か「渡し舟」であったといわれています。

山国川は、下流にできた水田の灌漑用の「荒瀬井堰」のため水位が上がりとても危険な状態でありました。



3. 競秀峰の景・三の峰

～競秀峰探勝道～



さんのみね 三の峰

観光案内所（樋田口）から登山すると3番目のスポットが「三の峰」である。

【競秀峰と青の洞門その3】

青の洞門は有料道路としても有名である。一人につき四文、牛馬は八文の通行料を取ったとされております。

青側の入口付近に小屋がけの料金徴収所を設けたとされています。

寄るべき故郷を持たない禅海和尚はその通行料で築いた蓄財のほとんどを羅漢寺へ寄進したそうです。



4. 競秀峰の景・恵比須岩

～競秀峰探勝道～



えびすいわ 恵比須岩

恵比須様の名前を付けられた奇石。本郡馬渡劫が一望できる絶景スポット。

【競秀峰と青の洞門・その4】

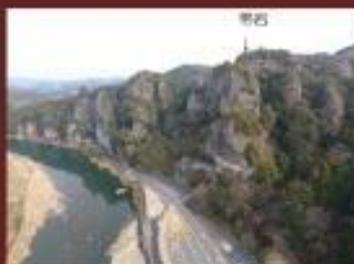
現在の青の洞門は一直線の車道となっており、この部分は明治以降に行われた道路拡幅工事によるものである。

禅海和尚が穿った青の洞門は車道の脇、山国川に沿って一部が現在も残っている。この昔ながらの洞門には大きな長方形の窓がついており、トンネルに光を入れ、廻った岩層を川に捨てるために利用された。



5. 競秀峰の景・帯岩（大黒岩）

～競秀峰探勝道～



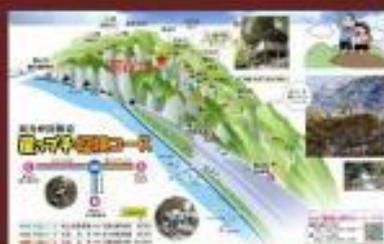
おびいわ（だいこくいわ） 帯岩（大黒岩）

競秀峰を仰ぎ見ると、えぐれている岩があり、それが「帯岩」である。帯岩には鎖があり、鎖場といわれている。岩自体は「大黒岩」という名である。

【競秀峰と鎖渡し その1】

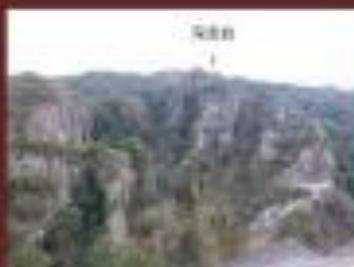
青の洞門が開通する前、競秀峰を越える最短ルートは危険な「鎖渡道」であった。岩に穴を穿ち、その中へ丸太の片方を差し込み、丸太の長い方を川に突き出す。

その丸太をつないで、川の上に栈を作った。そのつなぎに鎖をつかっていたことから「鎖渡道」と呼ばれた。



6. 競秀峰の景・鬼面岩

～競秀峰探勝道～



きめんいわ 鬼面岩

鬼の面のような形から名付けられた奇石。

【競秀峰と鎖渡し その2】

競秀峰の鎖渡道のほかにも妙見越えルートがある。現在の競秀峰探勝道（樋田～青の弘法寺）がそれにあたる。

菅木割から見るととても人が通れそうもない険しい山道に見えるが、意外となだらかな登山道である。

所々に野仏が祀られおり替から利用されてきたことがわかる。危険な箇所には鎖が渡されており、鎖渡しを体験できる。



7. 競秀峰の景・妙見岩

～競秀峰探勝道～

みょうけんいわ
妙見岩

「妙見岩」には、「妙見窟」と呼ばれる洞窟がある。妙見窟には「妙見堂」があり、古い由緒を物語る仏像や神像と伝説が残されている。

【妙見堂と妙見菩薩】
妙見堂の中妙見菩薩3体、男神像2体、如来立像1体が安置されている。妙見菩薩は半跏趺坐でひとときわ目立つ。妙見菩薩はいずれも一木造りで、1体は腐食が著しい。

開眼し、衣のひだは整い、衣はうすく肌に密着し、立体感があって、作風は平安時代の特徴がよく表現されている。

文化財 国指定 2019年3月30日 国史跡指定





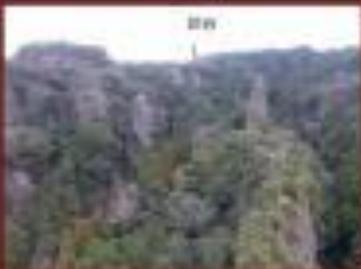
8. 競秀峰の景・鉾岩（不動窟）

～競秀峰探勝道～

ふどうくつ
不動窟

【鉾岩】
鉾のように尖った形状から名付けられた奇石。

【競秀峰の名づけ親】
競秀峰は、青の洞門を掘った禅海和尚と同じ時代を生きた江戸浅草の和尚「金龍敬経」が1763年に羅漢寺の和尚に招かれ、那馬溪を訪れた際に、洞門一帯の山を「競秀峰」と名付けたとされている。金龍和尚は青の洞門を「山陰道」、山国川を「争流川」と名付けており、かなり後世になって青の洞門・山国川と呼ばれる様になった。





9. 競秀峰の景・釣鐘岩（筍岩、清水洞）

～競秀峰探勝道～

しみすどう
清水洞

【釣鐘岩（つりがねいわ）】
釣鐘のような形の奇石。その形から筍岩とも。

【競秀峰と福沢諭吉・その1】
明治27年（1894年）2月、中津に20年ぶりに帰郷した福沢諭吉が、旧中津藩主奥平家の別荘を建てたいと耶馬溪を散策、遊賞した際に、この競秀峰の山々が売却されることを耳にして「万一、心ない人に渡り天下の絶景が損なわれては取り返しがつかない」と一帯の土地を購入する決心をしました。





10. 競秀峰の景・陣の岩（三陣の洞）

～競秀峰探勝道～

さんじんのどう
三陣の洞

【陣の岩（じんのおいわ）】
眼下を一望できる奇石「陣の岩」は、撮影スポットとしても人気があります。

【競秀峰と福沢諭吉・その2】
福沢諭吉は、自分の名を表に出さず、複数の土地所有者から一帯の土地約13,000㎡ほどを少しずつ目立たないように3年がかりで購入していきました。これはアショナルトラスト運動の先駆けであります。福沢諭吉の先見の明と行動力がなければ、今のこの美しい競秀峰はなかったはずです。



